



No. 81

The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

March 10, 2018

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

地域資源としての瀬戸の「やきもの」に関するシンポジウムを開催

生態水文学研究所

2018年1月27日(土)、生態水文学研究所はシンポジウム「日本遺産のストーリー：やきものの風景 with 東大演習林」を開催しました。「瀬戸物」として有名な愛知県瀬戸市の「やきもの」は、文化庁による「日本遺産」に昨年認定されました。シンポジウムでは、その認定をきっかけとして、瀬戸の自然や歴史文化がつくったやきものの風景をランドスケープの視点から読み解き、地域資源化の契機になることを目的に話題提供が行われました。およそ50名の参加者のもと、午前中には、富樫一巳林長、広嶋卓也所長の挨拶に続き、伊藤弘准教授(筑波大学)、水内佑輔助教らが講演を行い、午後にはエクスカージョンとして、やきものゆかりの公園や生態水文学研究所内の古窯を巡り、盛況のうちに幕を閉じました。



市内にある窯神社を訪問し、説明に聞き入る参加者

イベント企画術の研修会を実施！ 全国から技術職員が参加

田無演習林

2017年11月8日（水）～9日（木）、関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修を田無演習林主催で行い、京都大、北海道大、東京大から計6名の技術職員が参加しました。研修のテーマは「地域市民を対象としたイベント企画」です。近年は大学のミッションとして、研究・教育に加え、社会連携が重要視されるようになり、演習林でも一般向けの森林体験イベントを行う機会が増えてきています。そのため、イベントのねらいを一般参加者に的確に伝える技術が演習林の教職員にとって必要になっています。都内に位置する田無演習林では、以前から地域に根差したイベントを行い、市民との交流の中で「伝え方の工夫」や「安全に実施するための視点」を養ってきました。これらを一つの技術体系として言葉にし、研修参加者に伝えました。また、参加者には、各大学演習林で行っているイベントを紹介してもらったり、簡単なイベントを企画して実演してもらったり、教える側も教わる側も楽しくてためになる研修会を開催することができました。

地震発生を想定した避難訓練の実施

樹芸研究所

樹芸研究所のある南伊豆町は、東南海トラフ地震により震度6弱の揺れが予想されています。そこで、2017年11月22日（水）に駿河湾を震源とする大地震が発生したと想定し、避難訓練を実施しました。地震発生時には、その場の状況に応じて職員同士が助け合い、迅速かつ安全に避難行動がとれることが重要です。訓練では緊急時の防災行動を身につけることを目標としました。事務所、構内、温室でそれぞれ業務を行っていた時の起こり得る災害や危険個所を洗い出し、避難経路を全員で確認しました。いざというときに適切な防災行動ができるよう、今後も定期的な訓練を続けていく予定です。



一時避難場所にて避難経路の検討中

山火事の被害状況調査

秩父演習林

2017年11月21日（火）、秩父演習林内で無人航空機（UAV）の落下に起因する火災が発生してしまいました。地域の消防関係者の消火活動のおかげで、林床の火災のみで鎮火しましたが、多数の樹木の根元付近も焼けてしまいました。火災範囲には、演習林が長期にわたり天然林の変化を調査している大面積調査区が含まれていたため、12月18日（月）に調査区内の樹木の被害状況を調査しました。調査区6.875haのうち、約1.5haの林床が焼け、2014年時点の生存木約7,285本のうち、1,512本の樹皮に焼けた跡が見られました。そのうち428本は樹皮の全周が焼ける重度の被害でした。また、常緑低木のアセビでは葉が茶色く変色している個体も多く見られました。今後、この火災が森林生態系に及ぼす影響について注視していく予定です。



根元付近が焼け焦げたツガ
奥のアセビの葉が変色している

千葉演習林では、地元・鴨川市にある天津小学校の5年生と保護者の皆さんを対象に、森林について学んでもらうイベント「緑の教室」を開催しています。今年も50名が来演し、木登り・樹高測定の実験、広葉樹（コナラ）の植栽、林内散策、森林博物資料館の見学等を行いました。

このイベントは1998年に、天津小学校PTAの事業および総合学習の一環としてスタートしました。以来、メインとなるアクティビティは20年間ほぼ変えずに実施しています。「緑の教室」を含む天津小学校PTAの活動は、1999年には優良PTA文部大臣表彰に選出されました。2001年には学内広報（No. 1225）の表紙を飾る記事として取り上げられたほか、科学の森ニュース創刊号にも記事が掲載されています。20年もの間、毎年開催してきた結果、来演者は約1,600名（うち小学生約760名）にのぼり、地元の皆さんに千葉演習林の存在を知ってもらう絶好の機会となっています。1998年当初は教職員20名体制で対応していましたが、職員の定員削減に伴い現在では教職員13名に加え千葉演習林ボランティア会 Abies の皆さんの助力を得て対応しています。地域の生徒数も減少を続けており、2019年度には天津小学校と近隣の小学校との統合が予定されています。「緑の教室」も時代の変化の波に合わせながら、30年目を目指して歩んでいきたいと思えます。



一番人気のアクティビティ「ぶり縄での木登り」

演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

【3月】

1日 シンポジウム「気持ちよく納められる森林環境税とは？」
(企画部・教育研究センター)

3-5日 日本学術振興会研究拠点形成事業
「中間総括シンポジウム：アジア森林圏長期観測
フィールドネットワークの到達点と展望」◆
(企画部・教育研究センター・千葉・生水研)

3-7日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」☆ (樹芸)

10-11日 房総半島・養老渓谷トレイル◆ (千葉)

17-18日 千葉演習林ボランティア会 Abies「総会および植物観察」◆ (千葉)

18-22日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ-熱帯植物編-」☆ (樹芸)

23-25日 早稲田大学高等学院理科部生物班「森林実習」☆ (生水研)

24-26日 体験活動プログラム
「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」☆ (樹芸)

【4月】

14日 犬山研究林利用者協議会「春のふれあい自然観察会」(生水研)

21日 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆ (富士)

21-22日 千葉演習林一般公開「春の郷土畑へ行こう！」(千葉)

27日 森の循環を学ぶツアー (生水研)

28日 休日公開 (田無)

28日 ツリークライミング®体験会 (田無)

未定 鴨川市共同事業「野鳥の巣箱をかけよう (野鳥観察会)」(千葉)

【5月】

6日 休日公開 (田無)

12日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」☆ (田無)

12-13日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆ (秩父)

12-13日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識 (春編)」☆ (富士)

23日 利用者説明会◆ (千葉)

25日 利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会◆ (生水研)

26日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」☆ (田無)

26日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識 (春編)」☆ (千葉)

31日 利用者ガイダンス・発表会◆ (秩父)

未定 ガイドツアー「未定」(秩父)

未定 千葉県立君津青葉高等学校「校外実習 (植物)」☆ (千葉)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他

科学の森の動植物紹介

シジュウカラ
シジュウカラ科 シジュウカラ属
学名：Parus minor

生態水文学研究所

日本の全国山林だけでなく市街地や公園でもよく見られる身近な鳥です。体長 15 cmほどで昆虫や種子などを食べます。シジュウカラをはじめとするカラ類の多くは、巣箱を使って繁殖することでも知られています。つがいになったシジュウカラは、春



シジュウカラ雄（左）と
巣箱内の親鳥とヒナ（右）

になると巣箱の中にコケを敷き詰め、くぼませた真ん中に羽毛を敷いて産卵します。1回の繁殖で卵を6～10個ほど産み、およそ1か月かけて抱卵・育雛します。生態水文学研究所では、長年、林内に巣箱を設置して毎年カラ類の繁殖調査をしてきました。1983年から2017年の35年間で328つがいのシジュウカラが繁殖し、1092羽のヒナが巣立っています。

コラム

エゾマツのコンテナ苗が クリスマスツリーに変身

教育研究センター 後藤 晋

エゾマツは、苗木が様々な病気にかかりやすく、霜の害にも遭いやすいため、北海道全体でも事業的な苗木生産、造林が行われてきませんでした。これらの問題を解決するために、コンテナを用いたエゾマツ苗木生産を軸とする共同研究を実施しました¹⁾。実際に、コンテナ苗を作ってみると、通常苗木に比べて少しひよろ長い印象で、植えた後に順調に育つのが心配になりました。

そこで、2011年秋、富士癒しの森研究所にコンテナ苗100本と通常苗100本を植えて、毎年、サイズ測定と掘取り調査を行いました。最初はコンテナ苗のサイズが小さく、根も貧弱でしたが、2017年秋の最終調査では、どちらも高さ1mを超え、根もどっしりと育ちました（写真1）。

調査を終えた個体から形の良いものを選んで鉢植えにし、クリスマスツリーとしてコミュニケーションセンター、農学部資料館、教育研究センターで飾りつけをしてもらいました。研究材料からツリーに変身したエゾマツは、冬の季節に彩りを添えてくれたことと思います。

1) エゾマツ早出し健全苗木育成のための手引き、「エゾマツ早出し健全苗」プロジェクトグループ（編）、2014年1月



（左）土を落として地下部と地上部の乾燥重量を測定
（右）クリスマスツリー

科学の森ニュース（The University of Tokyo Forests News）

第81号（No. 81）

発行日 平成30年3月10日

発行人 富樫一巳

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp